

ブルー睡蓮

廣瀬清一 事務局



オリンピックの開催年だというのに、世界中が新型コロナウイルス禍（COVID-19）に見舞われた。

治療の最前線で働く医療従事者へ、感謝の気持ちを示す『Make it blue』活動が3月にイギリスで始まった。（青は、イギリスの国民保健サービス『NHS (National Health Service)』のロゴの色）

この一環として日本でも『Light it blue』キャンペーンが広がり、札幌市時計台、太陽の塔、通天閣、姫路城、東京スカイツリー、都庁舎など多くの施設が青くライトアップされた。さらに、航空自衛隊の『ブルーインパルス』の編隊が東京上空を旋回し関係者を慰労した。

こちらも感謝の気持ちを伝えたく、夏に咲く青い花のアジサイ、アサガオ、キキョウ、スイレン、ハナショウブ、ツユクサから『ブルー睡蓮』をテーマに選んだ。

エジプトのナイル川沿いには、昼に咲く青いスイレン「ニンファエア・カエルレア *Nymphaea caerulea* Sav」と、夜に咲く白いスイレン「ニンファエア・ロットゥス *Nymphaea lotus* L」の2種類の熱帯性スイレンが自生していた。学名のニンファエアは、ギリシア神話に登場する下級女神、精霊ニンファー(Nympha)に由来する。

青いスイレンは、水面より上に茎の伸ばし花を咲かす。尖った花弁は薄い青色で、中心部の花芯は明るいオレンジを帯びた黄色で、これが太陽を連想させたようだ。

花は朝開いて夕方には閉じるを3日間繰り返し、4日目に開いてその後水没する。一つの花の寿命は短い、開花期は5月下旬～10月と長く、水面に花を次々と咲かせる。神聖なものとして、神殿の中にある池などによく植えられていた。

古代エジプトではこの青いスイレンは、『ブルー・ロータス Blue lotus (ブルー睡蓮)』と呼ばれ、神殿・葬祭殿や岩窟墳墓の壁画・レリーフ、パピルスの巻物によく登場する。

エジプトの神話によると、原初の水から出現した太陽はロータスの花の上で輝き始めたとされる。さらに、ロータスの香りは、朝に東から昇り夕に西に沈み一日に死と再生を繰り返す太陽神ラーに活力を与えるとされた。

ロータスの化身であり、来世で無限の寿命を与える再生の神ネフェルトウム(Nefertum)は、頭の上にロータスの花を咲かせた姿で描かれている。



壁画や巻物には、神にロータスの花を献上する場面、ロータスの花の香りを嗅いでいる宴会の様子、ヘアバンドにロータスを付けた女性の姿などが描かれている。

神々を真似て人々は命の復活を願い、ロータスの花の香りを嗅いで幸福感や恍惚感を得ていたのかもしれない。

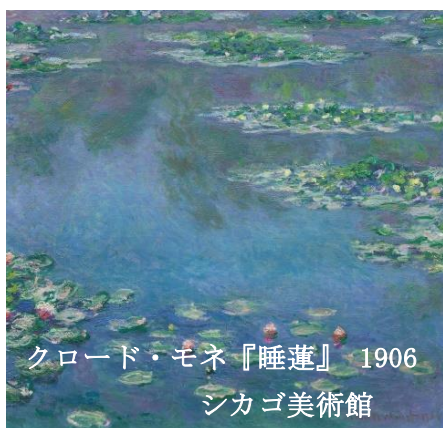
さて話を現代に戻して、スイレンと言って思い浮かぶのはフランスで活動した印象派画家クロード・モネ (Claude Monet 1840-1926) が描いた『睡蓮』でしょうか。

モネは、ふとした偶然からパリから北西の田舎町ジヴェルニーに移住する。

モネの趣味はガーデニングであり、絵の題材になる『花の庭』を造り始める。しばらくして鉄道 (今は道路) を挟んだ向かいに新たな土地を購入し、日本風の池のある『水の庭』を造る。

この池にいろいろなスイレンを植えようとしたが、モネが憧れた熱帯性ブルー睡蓮はジヴェルニーの気候に合わず育たなかった。

このため、モネの池のスイレンは全て温帯性 (耐寒性) スイレンとなり、水面に花を浮かべて咲かせ、周囲の木々や空が映り込む水面に溶け込んだ独特の雰囲気が生まれた。



モネは、この池にキャンバスを据えて季節や天気、時間の移ろい、さらには風に揺らぐの水面を捉えようと 200 点を超える『睡蓮』を描いている。

『睡蓮』の大作はオランジェリー美術館の『睡蓮の部屋』に収められている。

高知県に、ジヴェルニーのモネの庭を再現した「北川村『モネの庭』マルモッタン」があるのを知った。

ここの『水の庭』には、ジヴェルニーの池から株分けしてもらった温帯性スイレンがある。

そして、さらにモネが咲かせたかった熱帯性スイレン『ブルー睡蓮』を見ることができるといふ。

この庭園の責任者川上裕氏は雑誌のインタビューに「朝 8 時ごろに作業のため池に入ると、よい香りで幸福感に包まれる」^{7,8)}と答えている (温帯性スイレンはほとんど無臭だが、熱帯性スイレンの花には甘い香りがある)。



このスイレンの花の香りを嗅ぎたいと思っても、スイレンの切り花は、開花や花もちの面で取扱いが面倒なため花屋の店頭で見るとはほとんどない。

さて、私がブルー睡蓮の香りを嗅いだのはだいぶ以前になる。『ブルー睡蓮』の花の香りを分析しようと蓬田勝之氏に連れられて、大船フラワーセンターのグリーンハウス内の熱帯性睡蓮池を訪ねた。

香りの成分としては、Octanal、Nonanal、Benzaldehyde、Methyl jasmonate、Anis aldehyde、Anisyl alcohol、Ionone、Anisyl acetate、Benzyl alcohol などが検出された⁹⁾。

アニス様でやや甘さのあるアルデハイディックなニュアンスがあり、全体としてリーフィな青さのあるジャスミン・リラ様のまとまりのある香りであったとある。こんな表現で香りが伝わるか心持たない。もし機会ができたならもう一度嗅いでみたい。

参考文献

- 1) ニンファエア・カエルレア睡蓮図鑑 (睡蓮愛) <http://kaidaya-suien.seesaa.net/> 2020.6
- 2) ネフェルトウム Wikipedia 2020,6
- 3) 秦寛博『花の神話』新紀元社 2004
- 4) 村治笙子ら『図説 エジプトの「死者の書」』河出書房新社/ふくろうの本 2016
- 5) ヴェロニカ・イオンズ、酒井傳六訳『エジプト神話』、青土社 1991
- 6) 安井裕雄『図説 モネ「睡蓮」の世界』創元社 2020
- 7) 北川村「モネの庭」マルモッタン <https://www.kjmonet.jp/about/> 2020,6
- 8) 『北川村「モネの庭」に教わるスイレンの魅力』はなとやさい/タキイ種苗会 2018
- 9) 蓬田勝之、廣瀬清一『スイレンの香り』TEAC 1999